



2024年3月31日発行

こあじろの森くらぶ通信

No.40

第 41 回交流会「鳥いっぱい谷と海」

2024年2月4日（日）

講師：別府史朗

参加者：早朝谷あるきコース（4名）、のんびり漁港コース（3名）



今日は雨天で寒く、良い条件ではありませんが、小鳥たちは雨の中でも食べ物を求めて活動しており、いつもと違う鳥の姿や行動が見られるかもしれません。

早朝組は8:00に水道広場に集合、傘を差して“雨のこあじろの森”探鳥会が始まりました。水道広場で、また続く階段では、いつもなら数種類の鳥が観察できるのですが全く鳥の姿、気配が感じられませんでした。

ハンノキ林を過ぎるあたりから、地上の枯れた草原の中にアオジの姿がちらほらと現れだし、真ん中広場からは、アオジがあちこちで見られました。食べ物を探すのに夢中で、晴れの日と比べて姿を見やすいようでした。ヤナ

ギテラスまでの左右のアシやオギは刈り払われ、見晴らしの良い原っぱになっていました。

ヤナギテラスで一休み。地上にはシロハラが、テラス周りのジャナギではエナガの群れが移動し、ジャナギの梢ではカシラダカ2羽が羽を休め、頭上をカワラヒワが通り過ぎて行きました。また、手元の図鑑には載っていない未知の小鳥も現れ、後で確認することになりました。

ヤナギテラスを後にしてエノキテラスへ移動。湿地には水が蓄えられ、張り巡らされた水路にはしっかり水が流れており、湿地回復に向けた取組が進んでいることが伺われました。まだ、足元の水路にアカガエルの卵は見当たりませんでした。

ここでは、樹上にシメやツグミの姿が、灌木やアシには食べ物を探すシジュウカラが、エノキの枝にはモズが見られました。周りの鳥を見ているうちに集合時間が迫ってきたため切り上げて漁港へ向かいました。

10:30に漁港でのんびり組と合流。気温が下がってきたので天候も回復の兆しです。

早朝組とのんびり組が一緒になって出発。復路は、時間的に鳥の姿があまり見られない時間帯なので、鳥を探しながら自然を楽しむこととなります。宮前の峠までの道ではシジュウガラやアオジ、ヒヨドリ、ウグイスの地鳴きを聞きながら進み、浦の川の河口ではイソシギが尾を上下に振りながら歩く姿を観察できました。



モズ

エノキテラス横のエノキの枝では、モズが尾を上下に振りながら地上の獲物を探し、急降下してまた枝に戻ってくる様を見られました。

例年はエノキテラスで昼食ですが、雨のため取りやめ、周りの自然を楽しみながらヤナギテラスへ移動し、ヤナギテラスで休憩にしました。



ニシオジロビタキ

ヤナギテラスでは、朝に確認できなかった小鳥がテラス近くを行ったり来たりしており、携帯で写真を確認したところ、それはニシオジロビタキでした。ちょうど居合わせた方からもニシオジロビタキであることを教えていただきました。また、テラスの近くには目と胸が緋色のウズラほどの鳥がいて、それがヒクイナであることが判明。さらに、皆でヒクイナを観察していると、数メートル離れた場所にヒクイナのメス？との声も出た、地味で嘴の大きい鳥、クイナがいました。こあじろの森では初めての、ニシオジロビタキ、ヒクイナ、クイナの3種を、数メートルと言う間近で、ゆっくりと観察できるとは夢の様でした。

休憩し、鳥の観察が一段落したところで出発。天気予報通り雨も止み、鳥を探す傍ら自然の変化や管理などについて話をしているうちに水道広場に到着。記念撮影をして、ベイシアに移動。ベイシアで昼食をとり、鳥合わせをして今日の探鳥会を終了しました。

雨のため中止も考えましたが、参加者の熱意で実施された今回の探鳥会。その熱意が実ったのか、初めてのニシオジロビタキ、ヒクイナ、クイナが観察される大変ラッキーで忘れることが出来ない鳥いっぱい的一天となりました。



ヒクイナ



クイナ

今回観察できた鳥は以下の通りです。

キジバト、イソシギ、トビ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ、**ニシオジロビタキ**、**クイナ**、**ヒクイナ** 計21種 参考：コジュケイ、ガビチョウ 2種

(赤字は小網代の森初出)

記・写真：別府史朗

「雨でも行きます！」大正解でした。小さな鳥は餌を食べ続けないと死んでしまうからという講師の言葉どおり、次々に現れるではありませんか。さらに「あのグレーの可愛い鳥はだれ？」と Google レンズで探っていると、大きな望遠レンズのカメラを抱えた救世主出現、「ニシオジロビタキですよ」。何十年森に通っていても、まだまだ初めて見る生物に驚くことが嬉しくて、みんなでガッツポーズ！来年も雨でも行きます！

H.N

ああ、残念。雨だ、と思ったが、森に入るとしつとりと静かで、いつもと違ったたたずまい。鳥の声が雨音を凌いで聞こえてくる。アオジもいつもよりたくさん群れている。シロハラ、エナガ……教えられた鳥がいつもより素早く見つけられる。不思議～。雨は視界を遮り、音を聞こえなくするはずなのに。鳥たちは警戒心を解き、少しの雨なら平気で楽しんでいるようにみえた。最高に楽しい鳥観察だった。

A.M

今年初めての森歩きは早朝 8 時水道広場集合、雨のなか傘をさしながら鳥の観察。こんな時でも「鳥たちは毎日食事をしないと死んでしまう」とお話を聞いて自然は厳しいなと思ってしまいました。森の中歩いて行くと聞こえてくる鳥の声の主は誰？名前を聞いてメモ。姿を探し見つかると名前を教えてもらいメモしながら進み、時間もたち雨もやんで落ち着いて歩き出したらヤナギテラス近くの草原で一生懸命草をひっくり返して餌を探している鳥を発見！私たちが近づいて見ても知らん顔、何と初めて見た鳥で感動!!たまたま側にいた人に図々しく鳥の名前を聞いたたらその方が日本野鳥の会の会員さんだったんです、ビックリ!!新しい出会いが出来て良かった一日でした。 Y.M

小雨が降っていて三浦市はどうかねと思っていたら、今日先発隊の方からのラインメールが入り、森は動いていると確信、家を出た。後発隊の集合場所・時刻で受付担当のNさんに送っていただき小網代漁港へ。

先発隊と合流後、ゆっくりゆっくり森の上部へ歩くことになる。ヤナギテラスで大休止。クイナ、ヒクイナのお出まし。こんな大型の鳥が切り倒されたアシの葉、茎の上でお食事？ 暫く我々の目の中で遊んでくれた。

ニシオジロビタキなる聞き慣れない珍客も。北方からの冬鳥だそう。雨でも体が小さいので食べなくてはいけないから動くとは案内のBさんの言葉、新しいお客様が森にいつまでもいついてくれますように。

ダブルストックで人工木道を歩いているのだが、両ストックの幅を広く使うと疑似木道に生えた地衣類に滑ってバランスを崩す。何とか…

M.M

雨の中、こんなに小鳥たちが生き生きとくらしているなんて思いませんでした！ヒクイナとクイナ、初めてあそんでいるところを見ました。たくさんアオジもたのしそうでした。雨の中でも実施の決断を下さってありがとうございました。

K.S

のんびりコースの私たちが合流する頃には、雨も上がっていました。雨にも負けず鳥がいっぱいという噂の通り、のんびりコース始まって以来ではないかと思うほど、たくさん鳥に会えました。小網代の森では初めて観察される鳥に、3種も出会うことができ大満足です。帰る途中、大きなカメラを手にして道を急ぐ大勢の方とすれ違ったのは、ニシオジロビタキという鳥に会うために駆け付けた探鳥家の方々だったのでしょか。そんなに貴重な鳥とは思ってもよらず、しっかり観察できました。 M.H



第 40 回交流会「三戸の遺跡めぐり」

凡例

緑▲：旧石器時代

茶■：縄文時代

赤◆：弥生時代

黄●：古墳時代

青▼：古代、中世

紫★：近代

開催日：2023年12月2日（土）

参加者：9名

行事が重なり参加者は少ないですがお天気は最高!!冬とは思えないほど暖かい日差し、歩くには気持ち良いです。三戸浜で海を眺めながらお昼ご飯も楽しみました。前回の遺跡探訪会で見えていた富士山が雲に隠れてしまってとても残念です。

今回の交流会は三戸地域の遺跡をめぐり歩きます。遺跡の案内はスタッフ3人が担当。前回「こあじろ遺跡探訪会」で須田先生から頂いた資料を配布しました。巡りたい遺跡が多かったので、当日説明が出来なかった場所も含めてここに載せています。下記の遺跡説明文は、三浦市教育委員会発行の「赤坂遺跡にみる遠い祖先の暮らし」「三浦市三戸・小網代地区遺跡詳細分布調査Ⅰ・Ⅱ」、みうらわが街ガイド(WEB)、三浦市三戸土地改良区三戸地区埋蔵文化財発掘調査団発行の「三戸地区遺跡群発掘調査報告書」を参照しています。

順路は三崎口駅から信号を渡り mitocafe の前の細道を歩き三戸入口交差点から御用邸道路を三戸浜方面へ。途中、三戸浜で海を眺めながらお昼ご飯とトイレ休憩、光照寺脇の坂道を上り畑の脇道を進み、小網代湾の突端の台地に沿って歩き、農地造成された畑の道から小網代の森北尾根入口に出る坂道を上り、引橋バス停まで徒歩約8~9kmとなりました。

①■出口遺跡 「三崎口駅近くの県農業技術センター三浦半島地区事務所内」

建物造成工事中に発見、縄文時代早期の鶺鴒ヶ島台式土器が出土。

②■出口南遺跡 「技術センター三浦地区事務所近くの小高い畑」

縄文時代早期の無文土器片、弥生時代後期の土器片および土師器片が出土、弥生時代の竪穴住居が発見される。

③◆赤坂遺跡 「駅前の信号近くの丸石自動車場辺りから三戸入口バス停一帯」

丸石自動車駐車場から方形周溝墓が発見された。

範囲全体7万㎡その内約4700㎡が国指定史跡として公有地化(三浦市が取得)して保存(2011年)、三浦半島最大の弥生時代中期後期の遺跡、最大長軸15m短軸12mの巨大住居址4棟の他130以上の竪穴住居、その他多数の遺物を発見、それらの一部は、初声市民センター内(赤坂弥生学習室)に展示されている。

1929年御用邸道路敷設工事中、赤星直忠博士により竪穴住居址が発見される。1977年から2012年までに25次に及ぶ調査が行われた。

Mさんは当時の発掘説明会で青い指輪を見せてもらったそう。下見の時に出会った方は赤坂遺跡の発掘に携わった方で「石の刀の部分を見つけたのよ」と生き生きと話してくれた。

御用邸道路を行くと住宅街の入り口に「弥生の郷」の表示、開発時に遺構が見つかり調査後埋め戻したあと盛土をしてその上に住宅を建てたそう。遺構は今もそのまま保存されている。



④★金精神 「区画整備道路付近 元は旧長谷川家住宅近くにあった」

下見の時に会った畑の持ち主の方から伺ったのは、親戚の庭に祀って有ったが家の跡継がいなくなったので、宝徳寺の住職に供養してもらいこの畑に移って頂いた。子宝、安産、豊穰や生産に靈験があるとされている。



釜田遺跡

⑤■釜田遺跡 「神田バス停近くの坂を上り小高い丘の畑」

縄文時代の早期と考えられる無文土器片と条痕文土器片が出土。弥生時代の竪穴住居跡、溝状遺構、土器片、土師器なども出土。範囲は御用邸道路を挟んで南側にも及ぶ。畑の脇道は三戸上諏訪神社裏まで続いていると聞いた。

⑥■上ノ原遺跡 「農地造成された畑の中」

縄文時代中・後期（勝坂式・堀ノ内式）土器、弥生時代後期の土器片、古墳時代～古代の土師器・須恵器片、中世の羽釜・常滑片などを採集。



三戸祭祀遺跡を臨む

⑦■不入斗（いりやまず）遺跡 「農地造成された畑の中」

縄文時代の土器、陥し穴、古墳時代～古代の土師器・須恵器片、中世の羽釜・常滑片などを採集。

⑧●三戸祭祀遺跡 「終点三戸バス停から三戸浜へ向かう旧長谷川家住宅」

明治41年三戸地区の神社が上諏訪神社に合祀された。その時長谷川家にあった神社（下諏訪神社）から紡錘車、管玉、勾玉、須恵器高坏、さらに子持勾玉が発見された。子持勾玉は市指定文化財である。

⑩★天神丸石とサンコロ石 「三戸上諏訪神社近くの三戸浜」

江戸時代の初期、江戸城の石垣作りを命じられた大名が伊豆や真鶴へ注文し、船で運ぶ時に難破して三戸海岸に流れ着いた石が上諏訪神社の近くの浜にある。関東大震災で地面が上がったので姿を現した。現在3個の巨石が頭を出しているのは天神丸という船が難破して落としたので「天神丸石」、北川の河口の砂浜に顔を出している巨石2個が「サンコロ石」と言われている。神奈川県立歴史博物館に聞いたところ根府川石（安山岩系）だった。



天神丸石

⑪●光照寺裏古墳 「光照寺横の坂道を登る」

三方を海に囲まれた台地、周りを防風林に囲われた畑の中に残る古墳。赤星直忠博士が1927年発掘、赤星ノートに石組みの断面図などを記録し、1931年、当時は6つあったとされる古墳の写真を記録、「遠からず出入り禁止となるべき新御用邸敷地内古墳」と記す。現在は1つの円墳頂上に畑の所有者の方が「丸山塚」という石標を建て、保存している。



光照寺裏古墳

⑫●三戸横穴墓群 「光照寺裏古墳の西側の崖（えびか浜）」

赤星ノートには「いぶか浜横穴群」と記録されている。古墳時代後期。

⑬■三戸遺跡 「小網代湾の突端の台地、背の高い椰子の木が有る家が目印」

ここ周辺から採集された土器は縄文時代早期中葉の三戸式土器と名付けられている。

⑭■入道込（にゅうどうごめ）遺跡

「三戸の台地西側から農地造成された畑へ向かうT字路辺り」
縄文時代中期の土器、後期の土器、弥生時代の土器片出土。

⑯■藤ヶ崎遺跡 「小網代の森北尾根入口から台地の突端」

縄文時代早期～古墳時代、住居跡、土師器、土器片、須恵器、勾玉、など出土。谷戸部分から古墳時代中期の祭祀遺物と考えられる滑石製の勾玉が採集されている。



小網代の森北尾根

⑱■**がんだ畑遺跡** 「農地造成された畑の南東側とその東の小高い台地」
昭和初年に赤星直忠博士により発見された。旧石器時代の剥片、礫器、石皿、縄文土器、縄文時代、弥生時代の住居址。

⑲■**瓜山（うりやま）遺跡** 「番地が小網代字瓜山、北尾根入り口へ続く道のT字路」
縄文時代早期（無文土器）に属する土器片が出土。

この紙面では、今回私たちが立ち寄った所の説明のみとなりましたが、ルートマップには、他にも遺跡があります。遺跡の説明文の参考にした資料は三浦の図書館に、初声市民センター内の「赤坂弥生学習室」には、出土品が展示されています。

記：三本保子 写真：浪本晴美



三戸の遺跡めぐりルート記録



- ①■ 出口遺跡
- ②■ 出口南遺跡
- ③◆ 赤坂遺跡
- ④★ 金精神
- ⑤■ 釜田遺跡
- ⑥■ 上ノ野原遺跡
- ⑦■ 不入斗遺跡
- ⑧● 三戸祭祀遺跡
- ⑨● 上諏訪神社裏横穴
- ⑩★ 天神丸石とサンコロ石
- 🏠 昼食場所
- ⑪● 光照寺裏古墳
- ⑫● 三戸横穴墓群
- ⑬■ 三戸遺跡
- ⑭■ 入道込遺跡
- ⑮● 入道込B横穴
- ⑯■ 藤ヶ崎遺跡
- ⑰■ 藤ヶ崎B遺跡
- ⑱■ がんだ畑遺跡
- ⑲■ 瓜山遺跡
- ⑳■ 十八田遺跡
- ㉑▲ 水谷戸遺跡

Google マップに
スマホアプリ「位置ロガー」（木皿直規作）で
記録した GPS データをマッピング。
赤の線が当日移動したルートです。

- 凡例
- 緑▲：旧石器時代
 - 茶■：縄文時代
 - 赤◆：弥生時代
 - 黄●：古墳時代
 - 青▼：古代、中世
 - 紫★：近代



がんだ畑遺跡

農地造成地



がんだ畑遺跡： 1968年に持ち上がった三戸・小網代地区開発計画があり、開発計画の具体化に備えて、遺跡の範囲・性格・年代などを把握するため文化庁、県教委からの助成を得て、三戸小網代地区遺跡調査団が結成され、1987年・1988年に遺跡分布調査。1998年事業者が開発計画の具体化に伴って事前発掘調査とのことで、1998年・1999年県営圃場整備事業区域で試掘調査、2002年～2006年に埋蔵文化財発掘調査がされた。調査報告は2006年に出されている。

現在、三浦市役所第二庁舎 文化・スポーツ課あるいは初声市民センター内の「赤坂弥生学習室」で閲覧できる。

発掘物には旧石器時代の剥片・礫、縄文時代の住居趾、土杭、弥生時代の住居趾があり、赤坂遺跡との関連も予想される。現在、この地は農地造成され、碁盤の目状に整備された道を農機具が行き交う。キャベツ・大根・スイカのみどりに覆われている。この大地の下には石器時代から人々が住み始め、海に山に田んぼに生活をしてきたのだ。

宮本美織



伊豆高原駅で偶然見つけたモニュメントサンコロ石と同じ石かと思い、反射的にシャッターを切りました。

江戸城の拡張用に西国外様大名に準備させた物、1個11トンの重さ、緻密かつ耐熱に優れ整形容易なものを1220個要求され、相模、伊豆東海岸の安山岩などが採用された。「御進上松平土佐守」と刻印されたものもある。(看板の解説より)

三本保子

三戸式土器

ゆっくりと海を眺めながら昼食をたのしんだ後三戸遺跡。小網代湾の突端の台地にあり、現在は宅地と畑地になっています。小網代湾の対岸から背の高い椰子の木（作家の曾野綾子さんのお住まい）が見えますが、まさにその場所を確認。ここ周辺から採集された土器は縄文時代早期中葉の型式で三戸式土器と名付けられています。三戸遺跡では、破片しか見つかっていないそうですが、いったいどんな文様なんだろう？（帰ってから横須賀市自然・人文博物館で撮影した展示品の写真の中に三戸式土器がありました。平行沈線文というそうです。）

浪本晴美



●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

今日は道なき道をかきわけ、三戸の山を（がんだ遺跡から）昇っていったのが、よかったです。よく歩きました。海もきれいでした。

M.T

何と今回も風がやみ穏やかな日差し、皆持ってるな～！
三戸浜でのお昼は和やかでしたね。
遺跡の説明は、グダグダでごめんなさい！
皆で歩きとおせたのでホッとしました。

Y.M

お天気に助けられました。三戸浜で広がる海と天神丸石を眺めながら、ゆっくりと腰をおろして昼食。気持ちのよい時間でした。

H.N

小網代の森の周辺に遠い昔、どんな人々が生活していたのだろうという疑問から近くは90歳の方に話を聞き、武士の時代のこの地の話を光照寺の住職に聞き、ついに石器、縄文、弥生の人々の三浦の大地に生きた跡を訪ねることになった。今、小網代の森の中で木の実を摘み、田んぼを耕す人々の姿が目に見え、この森も大昔から人々の命を繋ぐ森だったのだと確信が持てる。

M.M

好天のもと、楽しい遺跡巡りでした。スタッフの下見に助けられ、段取りよく見て廻りました。詳細な説明も適切で、勉強になりました。北尾根下のヤブコギもスリル満点で、本日のエポックです。

S.T

本日も上々のお天気
小網代湾周辺めぐり 2回目
赤坂遺跡からはじめて三戸浜方面へ 19ヶ所
そばまで行けない所（ガケの下）もあったけど
遺跡だらけ… 住みやすい所なんですね。

A.K

飛び入りのようなかたちで参加させていただきました。以前より三浦の海岸近くを歩いてみたい。遺跡と地形との関係、海や周辺との郷里感など自分で歩いて初めてわかることが沢山あると思っており、好奇心を大いに満足させていただきました。改めてお礼申し上げます。股関節の手術後年のため杖をもちまして、皆様のペースを乱したのではと案じられました。お陰様で無事帰宅しました。取り急ぎ、皆様にお礼申し上げます。

F.Y

春祭り

中井 由実

梅はまっすぐに枝を空に向かって伸ばす
つややかな小ぶりの花は
りんとして人を迎える

桜はたくさんに分岐した枝を広げる
風に揺れる花びらは大きめ
一本の木で花束に見える
訪れた人たちを歓迎するように

小網代の桜は
オオシマザクラとヤマザクラ
ところどころに新しい葉の緑をさした花飾り
集まる人々をお祭りに誘っている



挿し絵:「スプリング(春)」伸

天候不順

中井 由実

4月並みの暖かさの翌日に
真冬の寒さが戻ったりと
慌ただしいほどの天気の変化の冬だった

人間たちは天気予報を見て覚悟もできるけど
森の生き物たちはどうしていただろう
突然の春から厳しい冬へ激しい波だった

池の中の蛙の卵塊
タネツケバナのつぼみ
川底のヤゴ

目覚めてうとうととしている間にひえてしまうと
風邪をひいてしまう
人間はそんなことを考えて
カーディガンのボタンをとめていくけれど

サロン小網代「鎌倉殿の13人 畠山重忠」

2024.3.5 祖父川精治

NHKの大河ドラマで評判の「鎌倉殿の13人」に登場する畠山重忠。横浜市旭区鶴ヶ峰と二俣川周辺には、鎌倉殿の13人の重臣である畠山重忠ゆかりの史跡が数多く残されている。

二俣川の南には、頼朝没後に幕府内乱の勢力争いに巻き込まれ、元久2年(1205)6月、北条時政の陰謀により、数万の鎌倉側の武将兵が押し寄せたという「万騎が原」(まきがはら)という地名が残されている。対する重忠勢は僅か134騎で非業の死であったという。

その前に、重忠の息子の重保は、鎌倉へ呼び出されて騙し討ちにあってしまう。それは実に悲劇の一族でもある。

「慈光寺本承久記」によると、故大将殿(頼朝)の御時、軍の先陣をば畠山庄次郎重忠こそ承りしかども、其の人共は今なし。先陣、誰にか有るべき。

鎌倉武士の典型とされた重忠は、平安時代末期の長寛2年(1164)、武蔵国畠山「埼玉県深谷市」を本拠とする畠山重能の子として誕生。歴史資料上も好人物として描かれ、いつも先陣を任されて戦功も数々あり勝利に貢献したとある。なかでも頼朝の前において、義経の思い人である静御前が鶴が岡八幡宮で舞った時に銅拍子を務めたという有名な話が残る。また、平家追討の義経軍に従い一の谷の鶴越えの逆落としては、愛馬を労り担いで崖を駆け下ったという。

町名を使った町中には、万騎が原幼稚園、万騎が原小学校、万騎が原中学校等が存在する。町内には大きな石碑の「重忠公遺烈碑」がある。古いもので明治25年(1892)土地の人達である万騎が原地区の有志57人により建立された石碑である。

地域の横浜市旭区内の名物に、重忠を名付けた甘い最中や豆腐、銘酒等を販売する店舗がある。二俣川駅近くには、縄文時代の遺跡があり、私の散歩コースの一つでもある。

次いで隣接の、相模鉄道鶴ヶ峰駅下車徒歩10分の旭区役所。区役所構内には、重忠ゆかりの柵に囲まれて首洗い井戸跡がある。区役所近くの小高い所には、西向きに首塚があり七輪の石塔が建っている。

区役所先の国道16号と水道道が交差する所、茂みに囲まれて畠山重忠公碑がある。没後750年を記念して昭和30年(1955)6月、地元の鶴ヶ峰と重忠公出身地である埼玉県深谷市畠山の有志により建立されたものである。

近くの曹洞宗東隆山薬王寺には、畠山重忠を始め134騎を埋葬したという丸い六ツ塚が境内にある。寺では、重忠命日の6月22日には、毎年法要を行っている。寺横には詳細な案内板がある。おおよそ乱世には学問道義は衰えるが、畠山重忠公は智仁勇の三徳を兼備した武将で今なお親しみ慕われている。

表示された案内板から以下に抜粋する。

前略 鎌倉方北条時政から急ぎ鎌倉に出頭せよとの命に接した公は、菅谷の館「現在の埼玉県比企郡」を6月19日発し、鶴ヶ峰にさしかかるや雲霞の如き数万騎は、ここ霊堂の前方帷子川を越した彼方の台地(万騎が原)方面から、突然攻め寄せた。公は策にかかったとは知ったが武士として、ここに決戦を覚悟した。

この時、公の重臣らは一度菅谷の館に引返し軍を整えて鎌倉方を待つよう進言したが、公は毅然として我に陰謀ありと、無実が事実となり永久に汚名を着ると論じた。馬の刻(正午)より数時間の合戦の果て、愛甲三郎季盛の矢に当たり、遂に一族郎党134騎と共に玉砕した。厄年の42歳。時に元久2年(1205)6月22日。この地へ主従一同を六ヶ所へ葬り、代々六ツ塚と呼ばれている。「昭和48年(1973)6月22日建立」

薬王寺の近くの墓地、畠山重忠の妻「菊の前」は、合戦の知らせを受け急ぎ駆けつけました。この地で重忠戦死の報を受けて悲しみ自害をした。その場所へ駕籠ごと埋葬したので駕籠塚とよんでいる。墓前には、美しい生花が絶えたことはない。



■ スタッフ研修 第8回三浦の海岸歩き「三崎横断・西海岸へ」

2023年11月25日(土)

参加4人 薄曇りから晴れ

雨崎から通り矢まで海岸線を歩いてきて、城ヶ島に上陸。今回はまた本土へ戻って来た。通り矢行のバスを晴海町で降り、今は公園になっている北原白秋の旧居跡(写真-1)と、そこから見える城ヶ島や海の景色を確かめる。



通り矢まで続いてきた自然海岸が、この先は港湾施設が続き、西海岸の白石辺りまで人工の海岸線となる。そこで今回は三崎の歴史に触れながら、町を横断する「街歩き」を楽しむことにした。

三崎の町はそれほど広くはないが坂が多く、いたるところにちょっとした階段があり、違った風景が開けて驚かされる。またどういわけかお寺や神社が多く、その説明板を読むたび歴史上のキーパーソンが立ち現れ、興味をひかれる。

白秋旧居跡から、背後の山裾にある赤い鳥居が並んだ、三崎のかわいい伏見稲荷？(写真-2)、田中(桜)稲荷を参拝。ここのお稲荷さんは、ちょっと珍しい。かわいい子狐が母狐にへばりついているのだ(写真-3)。



田中稲荷の北隣の淋しい場所に隠れるように建つのは、源頼朝の側室とされる妙悟尼の墓(写真-4)。頼朝は三崎が気に入り、たびたび訪れたようで、椿、桜、桃の花の三御所といわれる風光明媚なところに拠点をつくり、お妾さんを住ませ、歌舞音曲を楽しんだらしい。そこは大椿寺、本瑞寺、見桃寺というお寺になっているが、妙悟尼は頼朝をしのいで1230年、大椿寺(写真-5)を開基した。



城ヶ島大橋をくぐってすぐ西に大椿寺はある。ちょうど大橋の旧料金所からお寺の裏にかけてが、向ヶ崎(大椿寺裏)古墳があったところで、6世紀頃の埴輪が出土したそうだ。お寺の裏を覗いてみたが、今は古墳も椿も見つからなかった。

北条湾を北上して諏訪神社前を通り、三崎番所跡の石垣を確かめ、西岸の日の出の商店街から本瑞寺への長い石段を上る。

桜の御所本瑞寺の創建は、三浦一族の祖とされる三浦為継で 1058～1065 年のこと。白秋はじめ文人墨客も多くお寺と交流があった様子が、句碑や墓碑などにしのばれる（写真 - 6）。

本瑞寺と並んで、和田義盛 1194 年開基の光念寺（写真 - 7）がある。この二つのお寺は三浦市でも有数の大寺院である。



高台にある二つのお寺を背に東側は、北条湾、城ヶ島、大橋、通り矢方面を見渡す絶好のロケーション。ここにあるベンチでお弁当をいただく。

光念寺の脇を通って海南神社（写真 - 8）の裏を回り込み、正面入り口へと進む。海南神社の祭神、藤原資盈（すけみつ）は貞観 6（864）年、暴風のため三崎に漂着したが、善政により当時の住民に慕われ、後年三浦の鎮守としてまつられた。4 人の家臣は、太郎が諏訪神社、次郎はこれから行く住吉神社、三郎と四郎はそれぞれ城ヶ島の西と東を守る形で祀られている。

神社を出てバス通りを渡ると、またもや長い石段があり、上りきったところが最福寺（写真 - 9）。以前、三浦洗一という歌手がいたが、このお寺の次男だそうだ。最福寺は、元禄の大地震（1703 年）で倒壊し、元御船手奉行であった向井将監一族の屋敷跡であるこの高台の地に移転してきたのだそうだ。



少し北にある、藤原資盈の家臣、次郎が祀られた住吉神社（写真 - 10）に寄ってから、西海岸方面に向かう。道すがら、密集した住宅の間に、いくつか寺院の大屋根が見える。

海岸が見え、諸磯の岬が見え、台地の西端に出た。崩れそうな石段を用心しながら降りると、すぐそこは見桃寺（写真 - 11）。寛永 5（1628）年、御船手奉行向井正綱の開基である。桃の御所であるが、今は白秋が向ヶ崎から一時移り住み、晩年に生前唯一建てた歌碑（写真 - 12）のあるお寺として知られている。





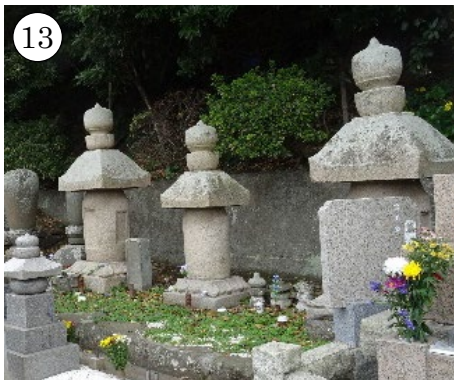
上田秋成著『雨月物語』の「菊花の約^{ちぎり}」を読みさして庭に出たところ、咲いていた白菊の花を見ていっそう寂しさを感じて詠んだと、歌碑の除幕式で白秋自身が語っている。

出典:野上飛雲著『北原白秋その三崎時代』

という歌であった。歌碑はみられたが、お寺の建物はコンクリート製で小さく、いささか趣に欠ける。見回してみるが、墓地もない。そうだ、石段を下りた右側に何かあったなと思い、戻ってみるとそこに墓石が並んでいた。

奥の一段高くなったところに一きわ大きく、見たことがない形の立派な石塔（写真 - 13）が並んでいた。熊野出身の海賊から水軍となって、武田氏、そして家康に仕え、江戸時代を通じて向井将監として活躍した向井一族の建てた石塔群だった。

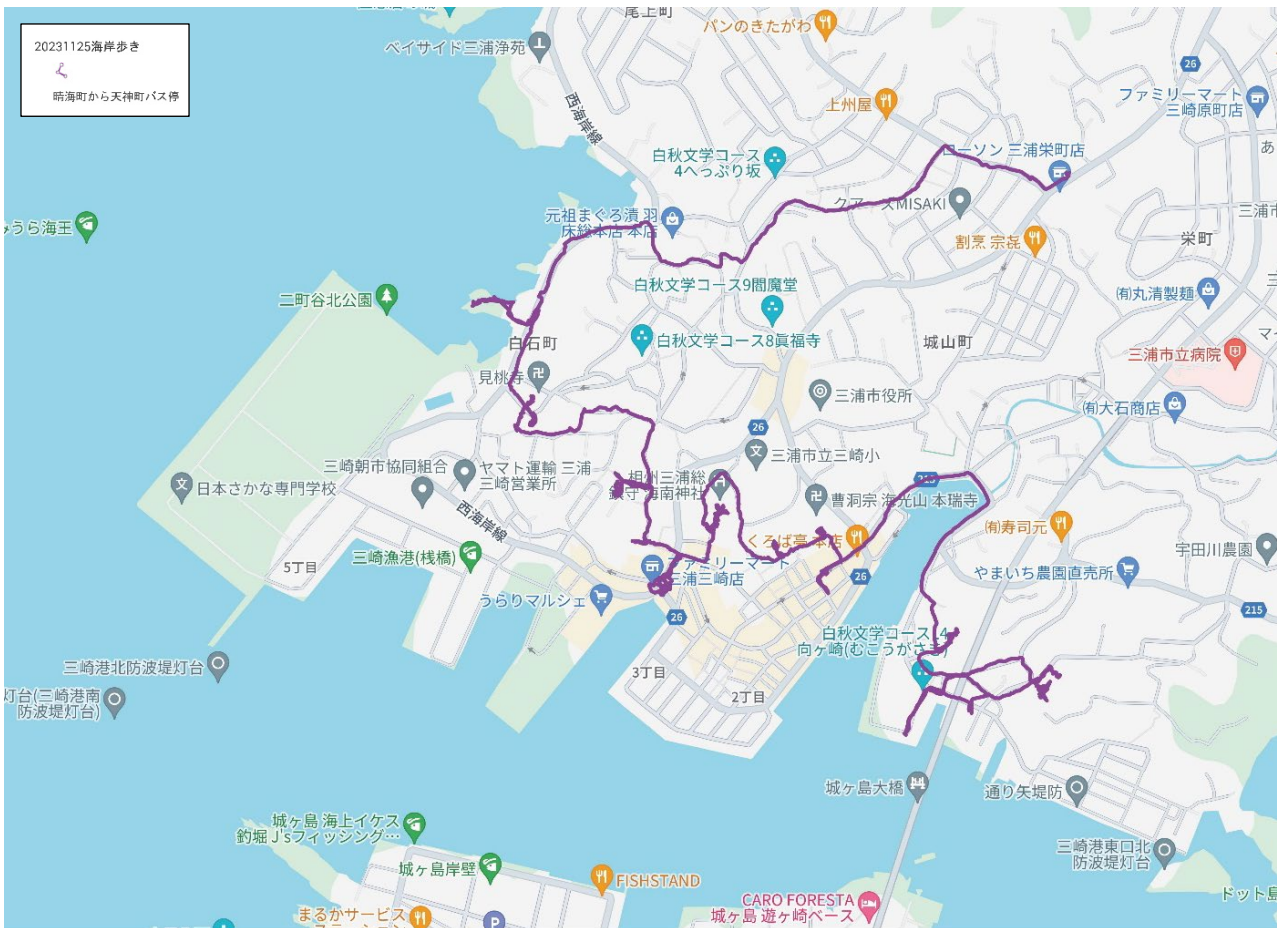
西海岸線道路に出るとすぐ、白石の洞窟遺跡発掘作業現場（写真 - 14）がある。囲いに覆われているが、洞窟のてっぺんが見えていてずいぶん大きな洞窟だと想像できる。新しい発見を私たちも楽しみにしているところだ。



道路を渡って、この辺りからまた自然海岸が現れだす。次は、県の天然記念物に指定されている「漣痕」（写真 - 15）である。十数メートル離れた海中に延びる岩の中ほど、白いギザギザを双眼鏡で観察。ここで、地層大好き女子の K さんが俄然活気づき、説明してくれる。城ヶ島の火災構造にちょっと似ているが、海底で堆積した泥が固まりきらないうちに、一定方向の静かな波を受けて生じた渦によって、このような模様の地層ができるということだ。

海外の交差点まで来て、本日の海岸歩きはここまで。天神町のバス停から帰途に着いた。





Google マップ上に木皿直規さん開発のスマホアプリ『位置ロガー』で記録した GPS 情報をマッピングし、ルートを示しました。

記：松原あかね 写真：浪本晴美・木皿直規



今日の小網代 写真家 加藤利彦さんから写真をいただきました

2024 年 1 月下旬から 2 月上旬



ニシオジロビタキ



クイナ



ヒクイナ



アオジ

スタッフ研修 「変形菌探し 2023@光の丘水辺公園」

11月30日森の仲間と連れ立って横須賀市光の丘水辺公園を訪れました。

悪天候などで予定を延期しての今日の訪問は良いお天気で、YRP野比駅からトンネルを抜けるとそこは不思議の国でした。大きなビルディングが広々とした丘にゆったりとそびえたち自分が小さな蟻になった気分がします。ビルの中では日々最新技術を駆使していろいろな研究開発が行われているのです。

さあ私たちも虫眼鏡を使って最新の情報を探求しましょう。どんな研究も対象の観察が一番です。水辺公園友の会の別府さんに迎えられて公園事務所に入りポコポコとエアーが噴き出る水槽内の水生生物にもご挨拶してから長靴はいて園内の観察に出発しました。

普段の散策では入れない管理区域にはよれよれの門扉を開けてもらって侵入します。ここのビオトープにとってわたしたちはエイリアンなのです。

今日の目的は変形菌探し、虫眼鏡を携えたわたしたちは巨大な生物で彼らにとってはまるで異次元の存在です。名実ともに異次元なのです。彼らの世界は平面の2次元です。私たち人の世界は縦横高さのある3次元です。もうそのことを思っただけでドキドキしてしまいませんか？ 異次元世界の生物のコンタクトです。

朽ち木をバリバリ割って変形菌の搜索を開始しましたがなかなか見つかりません。恐ろしいエイリアンの襲来にどこかへ隠れているに違いありません。探してもみつからないので周囲をみまわすと自然いっぱいの秋の公園です。散策路にそって歩くだけでいろいろな生物に遭遇します。やはり3次元生物は3次元におなじみなので目は自然と立体的に観察してしまいます。植物も鳥も昆虫もいきいきとその存在を主張します。目も自然とそちらに向いてしまうのです。太陽に照らされて水底にうつるアメンボの拡大された水面のくぼみの影は彼らに体重があることを主張しています。空をとぶトビの姿は羽田空港を飛び立ったジェット機の下で堂々と自由に飛ぶことのすばらしさを主張をしています。

さて、本日の目的である変形菌ですが2次元世界の生物と紹介しましたが、普段はアメーバ状で平面をはって移動する生物なので面積があることはすぐにわかりますが厚みはあまり感じません。ところが季節によってその生活環境が変わると移動をやめて細かいキノコのような子実体に変形して胞子をぶちまけます。ですから実際は私たちと同じ3次元生物なのです。

今日の水辺公園の訪問を終わって帰るときに別府さんからおみやげとして培養した公園の変形菌を養子にいただきました。オートミールを食事にして飲み物は水でOKとのことです。無事に育ってくれるかな。楽しみです。(伸)

●●● 水辺公園友の会の行事予定 ●●●

キッズ自然教室Ⅱ「田植え・稲刈り」5回コース

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ①オリエンテーション・自然観察 | 5月4日(土) 9:30~12:00 |
| ②田植え | 6月1日(土) 9:30~12:00 |
| ③自然観察と草木染 | 7月6日(土) 9:30~12:00 |
| ④稲刈 | 10月5日(土) 9:30~12:00 |
| ⑤脱穀 | 11月9日(土) 9:30~12:00 |

対象 : 5回続けて参加できる小学生

申込方法 : (受付開始4月15日(月) ~ 先着15人)

E-mail : mizube@ryokukazouen.jp

宛に住所・電話番号・氏名(カナ)・学年を記載の上、お申込みください。

大人も保護者、友の会会員(こあじろの森くらぶも)は参加できます。

ハンゲショウ群生地公開 6月22日(土) ~ 6月28日(金)

小網代の森 NEWS

◆◆ スタッフの活動

2023.12.10(日) 第39号こあじろの森くらぶ通信及びカレンダー発送作業

2023.12.17(日) スタッフ会議(リモート)

- 2024.1.11 (木) ～2.29 (木) 横須賀市立市民活動サポートセンター・のたろんフェア参加
(活動紹介ミニ展示コーナーにポスターを展示)
- 2024.01.14 (日) スタッフ会議 (リモート)
- 2024.01.21 (日) 赤星直忠博士文化財資料館小冊子編集会議
- 2024.01.25 (木) 遠足 (南下浦遺跡) 下見
- 2024.02.02 (金) 赤星直忠博士文化財資料館訪問 (小冊子打ち合わせ)
- 2024.02.04 (日) 第 41 回交流会「鳥いっばいの谷と海 2024」
- 2024.02.10 (土) 南下浦遺跡探訪遠足、ニリンソウ遠足お知らせハガキ投函
スタッフ会議 (リモート)
- 2024.02.11 (日) 赤星直忠博士文化財資料館小冊子編集会議 (リモート)
- 2024.02.17 (土) スタッフ研修 第 9 回海岸歩き「諸磯」
- 2024.02.18 (日) 赤星直忠博士文化財資料館小冊子編集会議 (リモート)
- 2024.03.03 (日) 赤星直忠博士文化財資料館編集会議、
第 40 号通信編集会議 (於 横須賀市立市民活動サポートセンター)
- 2024.03.10 (日) スタッフ会議 (リモート)
- 2024.03.16 (土) 通信 40 号編集会議 (リモート)
- 2024.03.17 (日) 通信 40 号編集会議 (リモート)
- 2024.03.20 (水・祝) 遠足 南下浦遺跡探訪会

◆◆スタッフ研修 第 10 回海岸歩き「油壺」

日 時：2024 年 4 月 6 日 (土) (雨天順延)

集 合：10:00 三崎口駅前

*参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。詳細をお知らせします。

連 絡 先:staff@mori-club.com(メールの件名に「海岸歩き」とお書きください)

◆◆スタッフ研修「変形菌探し 2024@光の丘水辺公園」

光の丘水辺公園へ、変形菌を学びにいきましょう。スタッフ研修ですが、興味をお持ちの方はご参加が可能ですので、ご連絡ください。天候などの条件により、中止または日程変更になる場合があります。

日 時：2024 年 4 月 18 日 (木)

集 合：10:00 光の丘水辺公園管理事務所前集合

持ち物：長靴、虫眼鏡、お弁当、飲み物

連絡先：staff@mori-club.com (メールの件名に「変形菌」とお書きください)

◆◆第 42 回交流会のお知らせ

「生き生き草萌え花咲く春の森」

萌える木々や草花、舞い始めたチョウ、ウグイスは囀りのお稽古に余念がなくて、春の森は生きものの気配に満ち満ちています。

日 時：2024 年 4 月 29 日 (月・祝) 荒天中止

集 合：10:00 三崎口駅前

解 散：14:30 頃 エノキテラス

持ち物：昼食、飲み物 (あれば双眼鏡、図鑑などがあると楽しい)

*参加資格：会員とそのご家族、ご友人

*保険はありませんので、ご参加は自己責任でおねがいします。

◆◆◆【謹呈】小網代の歴史を訪ねてみようⅢ「赤星直忠博士文化財資料館」小冊子

昨年 4 月 16 日こあじろの森くらぶ遠足として赤星直忠文化財資料館を訪ね、剣持輝久館長にご講演いただき、貴重な文化財を展示している資料室を見学させていただきました。その記録を「小網代の歴史を訪ねてみよう」シリーズⅢとして、小冊子にまとめました。通信に同封し、会員の皆さまにお送りします。また若干の残部がありますので、ご希望の方には実費 (+送料) でお分けすることも可能です。

こあじろの森くらぶ通信 No.40 2024 年 3 月 31 日 発行：こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先：ホームページトップの「お問合せ」からメールをお送りください (高橋)

電話 046-889-0067 (仲澤)

ホームページ URL：<http://www.mori-club.com/index.html>

(右側の QR コードをスマホの QR コードリーダーで読み込んでください)

年会費：1000 円 (7 月～6 月) 入会金不要

郵便振替：こあじろの森くらぶ 00290-6-137303

